

植物と人々の博物館メールマガジン

第 88 号 2022 年 6 月 1 日発行

2023 年は国際雑穀年



テイカカズラ、ニオイバンマツリ、クチナシ、アジサイと順次開花してきました。カサブランカも花芽が膨らんできました。ニンジンやカブが取れて、オクラ、ルッコラの芽が出てきました。ディルの種子も採れそうです。シマラッキョウ、ショウガを漬け込みました。去年のこぼれた種子から芽が出たキビはもう出穂しました。佐野川では、雑穀類の種まきをしました（写真）。植物を育てることは楽しく、家庭菜園は有機無農薬で美味しいです。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、ご一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

1. 植物と人々の博物館

友の会会員になってくださるとうれしいです。

○予定

1) 開館・作業予定日：6月9日は開館します。

2) 民族植物学ノオト第16号の原稿は12月を締め切りにして募集します。ご寄稿ください。森とむらの図書室、日本村塾、農学校などの小史を記録します。編集子は大国主命と八神姫の子、木俣の神の末裔として、信仰論を寄稿する予定です。その後の冒険学校やちえのわ農学校の小史も記録してほしいです。

第15号までのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

3) 電子書籍：

植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍（既刊）の項で読めます。40年前の録音記録、『降矢静夫対話集』（降矢静夫・木俣美樹男編）は公開しました。降矢は20世紀の類まれな優れた山村篤農です。教養（第7感）とは何かを実証している人です。西原関連の文集をまとめておきました。「降矢静夫関連文集成」は下記です。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/milletstn/furuyaall.html>

引き続き、一部公開中の雑穀の民族学関係の書籍、選集 III『日本雑穀のむら』は年内完結を目指して加筆修正もしています。選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』の読み書きを進めて、順次公開します。これら4冊のまとめとして選集 VI “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。クリンネス（木俣美樹男 2022）は偶数月に植物の香りを話題に連載継続します。

4) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」。
「サンフランシスコ市の環境保全と中間支援 NPO の取組み」(NPO バース)。ありがとうございます。

5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のために会員になってくださるか、ご寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願ひします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。費目指定でご寄附をいただくとありがたいです。これまでに 7 名の方からご寄附頂きました。郵便振込口座は下記です。

講座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdf および 2022 年の予定など、ご案内は下記のサイトにあります。 <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。参加申込みをしてくださった方には当日の要綱、交通案内、zoom の URL などをメールでお伝えします。

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NPO4 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。このような考え方が、うれしいことに日本版気候若者会議からも示されています。 <https://youthclimateconference.jp/about>

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄附で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは上記サイトにあります。

○報告

第 5 回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：5月15日（日）、9名参加でした。 <https://youtu.be/mfTV5j39fQE>

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）

話題：雑穀街道とFAO世界農業遺産 話者：木俣美樹男（雑穀街道普及会）

要旨：日本における稲作以前、雑穀栽培の伝播、絶滅寸前の栽培現況、遺存的栽培地を結ぶ雑穀街道をFAO世界農業遺産に申請して、山村において生物文化多様性を現地保全する。自給農耕ゼミ（佐野川）の紹介。

第8回自給農耕ゼミ（佐野川）

日時：5月22日（日） 9：00～15：00 6名参加

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩

目的：在来雑穀の栽培法を学び、栽培者を増やして、絶滅寸前の栽培現況を改善する。遺存的栽培地を結ぶ雑穀街道をFAO世界農業遺産に申請して、山村において生物文化多様性を現地保全する。

話題：在来雑穀6種の播種のしかた。佐野川茶の管理作業の紹介。雑穀栽培の基礎技能を学ぶ。畝立て、施肥（元肥）、播種の仕方を実習する。佐野川茶の管理作業を学ぶ。

話者：宮本透さん、木俣美樹男（雑穀街道普及会）

○予定

6月と7月は野川源流や玉川上水周辺の野外巡検を連携して行います。小金井の北部や近隣市をつなげて見ます。場所をよく知る方々がご案内くださいます。ぜひ、ご参加ください。

第7回環境楽習会

日時：6月26日（日）10：00 出発～12：30 解散 一次案内は下記です。

<http://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/pel7an1.pdf>

集合時間・場所：9：45、西武国分寺線／鷹の台駅。解散場所：JR中央線／国分寺駅
プログラム：（定員：15名） 資料代：200円

野外巡検案内解説者：福田恵一さん（羽村第一中学校）

小金井とかかわりの深い玉川上水と恋ヶ窪分水、野川源流部の姿見の池を巡検し、水環境と暮らしの歴史を学ぶ。

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

申込者に詳細案内をお送りします。

第6回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：7月31日（日）、

○ 日時：7月31日（日）13：30～16：00 集合・解散場所：JR東小金井駅北口

○ 場所：小金井市関野町、梶野町の玉川上水周辺（定員：15名）

○ プログラム：

話題：屋敷林、都市農地の巡検

案内者：小谷俊哉さん（グリーン・ネックレス）

内容：梶野町周辺の屋敷林や農地の巡検。

コースイメージ：東小金井駅→梶野公園→スタジオジブリと周辺のジブリが取得したオープンスペース→瀧島さんの屋敷林と農地と賃貸アパートの見事な花壇→築樋→気に広がる武蔵野市の桜堤団地と新しい広場空間→東小金井駅。

第8回環境楽習会

日時：8月28日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館およびオンライン（定員：20名、ZOOM：100名）

話題：（仮題）市民大学の試み

話題提供者：深澤まどかさん（シブヤ大学）

シブヤ大学の活動から、市民大学、自由大学の重要な役割と可能性を学ぶ。

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

3. 雑穀街道普及会：

○報告

1) 雑穀街道普及会の冊子500部は行政関係者や関連団体、関心のある方に配布しました。藤野駅横のふじのね、東京学芸大学環境教育研究センターにも置いてくださいました。この冊子は少し加筆して2刷目500部を追加印刷しています。ご住所をお知らせくだされば、必要部数を送ります。また、ウェブサイトにも掲載しました。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletstrasse/ms22n2.pdf>

2) 自給農耕ゼミ（佐野川）：佐野川の宮本さんの畑で雑穀栽培講習会を再開しました。上野原駅からバス（20分ほど）があります。環境学習市民連合大学と連携して行います。5月22日は埼玉から4名の方々が参加くださり、1.4aにアワ、キビ、モロコシのほか、シコクビエ、ヒエ、ハトムギ、センニンコク、陸稲を播種しました。

自宅のプランタでも在来品種の種子継ぎができます（写真）。少しの収穫量でも、炒ればポップコーンや麦茶のように楽しめます。播種時期はまだ間に合いますので、ぜひ試してみてください。雑穀栽培の手引きと自家採種した雑穀種子を栽培したい方に少しずつ差し上げます。費用はいりませんから、連絡先を添えたメールをください。

これから、雑穀や茶もいろいろな作業が続きます。栽培・加工・調理法などを学びたい方はご連絡くださり、ご参加ください。時期に応じてお誘いします。簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。ご質問にはいつでもお答えします。

<http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

小菅村の在来豆のひよっとをプランタで自家採種しています。7月播きですから、少しなら差し上げられます。柔らかい鞘を茹でる、てんぷらにする、熟した豆は煮ると美味しいです。鞘や豆の様子が面白いです。

○予定

1) 東京学芸大学創基150年記念の雑穀発泡酒クラフトの準備を続けます。自給農耕ゼ

ミと一緒に、宮本さんの畑で栽培したキビとホップで藤野の醸造所に委託して醸す予定です。また、国際雑穀年記念発泡酒としても良いかとも思います。

2) FAO 世界農業遺産申請団体とする予定の雑穀街道協議会（準備会）の賛同団体になっていただけるようお願いの依頼状を順次出します。現在、桂川・相模川流域協議会、北都留森林組合、トランジション・ジャパン、日本パーマカルチャー・センター、NPO さいはら、日本雑穀協会、家族農林漁業プラット・フォーム・ジャパンなどをお願いしています。

3) 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費や寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

4. 自然文化誌研究会

今年の主な活動予定は下記ウェブサイトにあります。

1) むらまつりキャンプは楽しく無事に行われました。親子参加含む参加者11名に対し、スタッフは35人ほど集まってくれました。

2) こすげ冒険学校、まふゆのキャンプ、INCHまつりライブは開催予定でいます。タイは未定です。

5. 桂川・相模川流域協議会市民部会

市民部会（5月22日）では雑穀街道協議会（準備会）にとっても好意的で、賛同してくださり、協議会幹事会（6月16日）で、直接、提案するようにしていただきます。総会（6月11日）は相模原市緑区のサン・エール相模原で開催されますので、新規会

員・自然文化誌研究会の担当運営委員として参加してみます。自然文化誌研究会にも関心を持っていただけたようです。

6. ワノサト企画室

6月2日に急遽、下記の準備のための話し合いがもたれます。

6月12日に開催されるローカリゼーション・デイ日本において、分科会を持ちます。東京近郊にエコビレッジ＝ローカリゼーションの砦をつくろう！

ホスト：ワノサト・エコビレッジ・プロジェクト

ゲスト：梶間陽一（トランジション・ジャパン、トランジションタウン小金井）

ワノサト・エコビレッジ・プロジェクトは、東京近郊にエコビレッジ＝循環型コミュニティを作ろうという志で集まった仲間たちです。今まで数年間、葉山、檜原村、大島、千葉、上野原、などで候補地探しをしてきました。仲間とビジョンは出来ています。これらを共有して、みなさんに参加してもらって、さらなる嬉しい楽しいビジョンと仲間をシェア出来たらと考えています。奮ってのご参加お待ちしております！

※協力団体：桂川・相模川流域協議会 植物と人々の博物館 雑穀街道普及会

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事：宮本透

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会／トランジション小菅**（山梨県小菅村）：

代表 亀井雄次（山梨小菅村）

**自然文化誌研究会**：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

**環境学習市民連合大学** <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

写真



佐野川での自給農耕ゼミ、登熟中のムギ畑と播種した雑穀畑、蔵の中の穀箱（飢饉に備えるアワ、陸稲の種子を保存）、および農耕具。



ベランダ菜園：こぼれ種から育ったキビ、アワ、シコクビエ、センニンコク。野菜はルッコラ、有機無農薬、間引きしながら、育てれば長らく楽しめる。陸稲やウルチキビも播種したところ良く発芽した。

5月に再冠雪した富士山、崖線上から見る。

